

## 授業科目 支援機器 I (移動機器)

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	義肢
東江 由起夫、飯塚 尚、羽豆 重村		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○				
【概要・一般目標：GI0】					
利用者のQOLを上げるために以下の事柄を学ぶ： - 移動福祉機器の対象者・種類・機能・構造・工学的基礎・技術変遷・今後の動向 - 車いすの適合性・安全性 - 障害の種類と車いす - 昇降装置、介護リフト また、専門用語について英語を学ぶ。					
【学習目標】					
1. 移動福祉機器の種類について説明できる。 2. 移動福祉機器の機能・構造について説明できる。 3. 利用者に適した移動福祉機器を選択できる。 4. 移動福祉機器（車いす）の工学的基礎・構造が説明できる。 5. 車いすの分解組立ができる。 6. 専門用語について英語で表現できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	福祉用具概論			1, 6	講義
2	移動福祉機器の歴史・対象者			1, 6	講義と質疑応答、演習
3	車いすの構造			2, 6	講義と質疑応答、演習
4	移動福祉機器の工学的基礎			4, 6	講義と質疑応答、演習
5	移動福祉機器の工学的基礎			4, 6	講義と質疑応答、演習
6	移動福祉機器（車いす）の測定			4, 6	講義と質疑応答、演習
7	構造とメンテナンス			4, 6	実習（大鍋・東江・大塚）準備（羽豆）
8	構造とメンテナンス			4, 6	実習（大鍋・東江・大塚）準備（羽豆）
9	構造とメンテナンス			3, 6	実習（大鍋・東江・大塚）準備（羽豆）
10	駆動ユニットの適合			3, 6	講義と質疑応答、演習
11	対象者の評価方法と移動福祉機器の選択（杖、歩行器）			3, 6	講義と質疑応答、演習
12	対象者の評価方法と移動福祉機器の選択（車いす）			3, 6	講義と質疑応答、演習
13	車いす・シーティングの人間工学的設計			4, 6	講義と質疑応答、演習
14	車いす・シーティングの生体工学と人間工学			4, 6	講義と質疑応答、演習
15	まとめ				
	注：7, 8, 9「車いすの分解・組立」3限－5限の連続時間とする。				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		1) 車いすのヒューマンデザイン	田中 理、大鍋寿一監訳	医学書院	2000・4,500円
		Introduction to Rehabilitation Engineering and Assistive Technology 板書、プリント	R. A. Cooper, H. Ohnabe, D. A. Hobson	Taylor and Francis	2006・\$69, 95
		福祉技術入門	後藤芳一、足立芳寛	Ohmsha	1998・4,515円
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
最終試験 70%、小テスト 20%、レポート 10%		原則、欠席 1 回につき - 5 点、遅刻 1 回につき - 3 点を最終評価から減点する。また遅刻 2 回で 1 回の欠席とする。 授業の 1 / 3 を欠席した者は、原則、科目評価資格を失うものとする。			